

**コミュニケーション教育／演劇ワークショップ
講師 履歴書**

平成 27 年 4月 1日現在

ふりがな	せんだ けいこ	男・女	
氏名 (芸名・雅号)	千田 恵子		
職業	脚本家・演出家		
所属団体	劇団青年座		
問合せ先	03-3467-0436		

演劇ワークショップ等の主な経歴		
2007年4月	川崎市立向小学校4年生（各クラス：総合の時間を1回） 新年度に入りクラスの団結を強める活動。実際のボールを使ってドッチボールをした後、想像のボールでドッチボール。次に実際の縄を跳び、想像の縄跳びをした。クラス全員で想像の縄を何回跳べるか、何回くぐれるか数えた。個人の想像をクラスへと共有した。	講師 助手
2009年11月	練馬区立関中学校1年生（各クラス総合の時間を3回） 演劇的手法を使って職業体験を振り返る活動。生活班に分かれ、まずは個人で体験したことを生活班でシェア。その後、班で最も共感した職場の体験を話し合っ一つ選び、役割・シーン・流れを決め、どのような体験だったかを発表した。	講師 助手
2010年1月	筑波大付属駒場中学校1年生（各クラス国語の時間を3回） 百人一首を演劇的手法を使って学習する。事前に7つの和歌の時代背景や作者を生徒が調べる。次に興味を持った和歌毎に分かれ、個人で調べたことをグループでシェア。その後、グループでシーン・登場人物・流れを決め、作家が作った和歌の世界観を発表した。	講師 助手
2010年9月	練馬区立関中学校1年生（各クラス総合の時間を3回） 演劇的手法を使って職業体験を振り返る活動。生活班に分かれ、まずは個人で体験したことを生活班でシェア。その後、班で最も共感した職場の体験を話し合っ一つ選び、役割・シーン・流れを決め、どのような体験だったかを発表した。	講師 助手

註) 上段: 幼稚園・保育園/小学校/中学校/高校の種別、学年、学校名もできるだけ記入
 地域での場合は、実施主体と年齢層および受講者人数
 下段: ワークショップ内容
 右欄: リーダーとして参加の場合は講師に、助手として参加の場合は助手に○を

2012年9月	新宿区立西早稲田中学校 1年生（各クラス：総合の時間を3回） コミュニケーション学習。架空の法律「14歳以下携帯電話禁止法」が成立されたのを受けた討論番組を創る協働活動。生活班に分かれ、番組が充実する為には、どのような意見と立場があればよいかを話し合う活動をメインとした。番組構成の台本はこちらで準備し、様々な立場を考え理解する事を活動の主とした。	講師 助手
2013年1月	新宿区立牛込第1中学校 2年生（各クラス：国語の時間を3回） コミュニケーション学習。架空の法律「14歳以下携帯電話禁止法」が成立されたのを受けた討論番組を創る。「聞く・話す・相手の論旨を捉える」活動を主とした。生活班に分かれ、番組が充実する為には、どのような意見と立場があればよいかを話し合い番組の流れ、役割を決め各班毎に生放送で発表した。	講師 助手
2013年12月	新宿区立西早稲田中学校 2年生（各クラス：国語の時間を4回） 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験の一環として。国語の単元「パネルディスカッション」を演劇的手法（シアターゲーム、即興、ティチャーインロール等）を使って「聞く話す」の活動をメインとし、4回目にはファシリテーターが司会、生徒がパネリスト、聴衆となりパネルディスカッションを体験した。	講師 助手
2014年2月	稲城市立第5中学校 1年生（各クラス：総合の時間を3回） 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験の一環として。先生からは、職業体験でインタビューをするので、コミュニケーションについて考える機会が欲しいとのこと。演劇的手法を使った話し合いの活動を主とし、3回目には、生活班で架空のインタビュー番組を創り発表した。	講師 助手
2014年3月	稲城市立第5中学校 2年生（各クラス：国語の時間を4回） 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験の一環として。国語の単元「パネルディスカッション」を演劇的手法（シアターゲーム、即興、ティチャーインロール等）を使って「聞く話す」の活動をメインとし、4回目にはファシリテーターが司会、生徒がパネリスト、聴衆となりパネルディスカッションを体験した。	講師 助手
2014年12月	稲城市立第5中学校 2年生（各クラス：国語の時間を3回） 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験の一環として。国語の単元「パネルディスカッション」を演劇的手法（シアターゲーム、即興、ティチャーインロール等）を使って「聞く話す」の活動をメインとし、3回目にはファシリテーターが司会、生徒がパネリスト、聴衆となりパネルディスカッションを体験した。	講師 助手
2015年1月	稲城市立第5中学校 1年生（各クラス：総合の時間を3回） 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験の一環として。先生からは、コミュニケーションについて考える機会となる授業を希望。演劇的手法を使った話し合いの活動を主とし、3回目には、各クラス毎に生活班で架空のお悩み相談室の番組を創り発表した。	講師 助手
2015年3月	新宿区立西早稲田中学校 3年生（各クラス：国語の時間を3回） 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験の一環として。卒業に向けて、彼らに「幸せとは何か」を考える機会にしたいとのこと。「幸せグラフ」を書く活動をメインとし、生活班で幸せについて考える架空の相談番組を創り発表した。	講師 助手
<p>註)上段:幼稚園・保育園/小学校/中学校/高校の種別、学年、学校名もできるだけ記入 地域での場合は、実施主体と年齢層および受講者人数 下段:ワークショップ内容 右欄:リーダーとして参加の場合は講師に、助手として参加の場合は助手に○を</p>		

ワークショップリーダーとしての研修歴について	
2008年8～11月	芸団協「実演家よ、学校へ行こう」研修参加（講師：熊谷保宏、小林由利子、西田豊子）
20013年12月	芸団協「これからの学校教育と表現活動」（講師：渡辺貴裕）1日
年 12月	芸団協「国語科単元教材によるコミュニケーション学習プログラム 4年生『ぞろぞろ』劇化の過程と理解深化を考える」（講師：西田豊子）
2014年 8月	劇団協議会「エドゥケーションワークショップ」（講師：ケネス・ティラー）
2015年 4月	TAICHI企画「アップライドドラマワークショップ」（講師：アレン・オーエンズ）3日
註）講座名、講師名、研修期間を記入すること	
主な芸歴・受賞歴等	
1997年3月	法政大学工学部経営工学科卒業
2001年3月	舞台芸術学院演劇科51期卒業（2年）
2001年4月	劇団青年座文芸部入団
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
註）専門教育機関（大学等）、劇団養成所等で学んだことがある人は、履修期間も明記すること	

自己PR
<p>2児の母で子供が大好きです。 声優学校、演劇学校での指導、高校の国語選択授業演劇講師・講師アシスタント、演劇コンクール審査員をしており、演劇をツールとして子供が成長していく過程に関心があります。 ファシリテーターの活動では学校の先生との事前の打ち合わせを大事にしています。クラスの人数、子供の傾向、雰囲気、先生が子供達に何を学んでほしいのか、何の教科を充てての活動かを伺い、目的を考え、オーダーメイドのプランを創り、先生と共に、子どもたちの成長をサポートしていきます。いま、子どもたちには自ら課題を発見・解決し、考えを発信していく力が求められています。それは、表現力、コミュニケーション力で、生きる力の基本です。表現するには、まず自分はどう感じているのかを自覚し、他の人の考えを察し、他者の感じ方を受容することも不可欠で、様々な言葉を子供達に投げかける事によって、無意識にしている事に「気づく」ことを大事に活動をしています。私は自己を表現したり、共演者や観客の反応を受け止めたりということをなりわいとしており、いわば心のキャッチボールの専門家、教師とは違ったアプローチで、子供に向き合って活動しています。子どもたちにとって、＜創造性＞に関わることを専門にしている大人との関わりは、子どもたちの表現・コミュニケーションの芽を伸ばすきっかけとなるのではないかと考えています。</p>